

2026年3月 (No.441)

## 主な内容とページ

2025 年世界半導体貿易 AI ブームとトランプ関税を反映 .....	1
輸入 ベトナムと台湾が急伸.....	2
日本の輸入の 4 割は台湾、TSMC 熊本で今後変化? .....	3
輸出 中国が最高更新.....	4
米中貿易紛争、関税政策は失敗 .....	5
米国は中国市場を捨てられない .....	5
中国のメモリ輸出額、韓国に肉薄 .....	7
速すぎ、遅すぎ?(SRL だより) .....	9

## 2025 年世界半導体貿易 AI ブームとトランプ関税を反映

2025 年の世界の半導体貿易は、AI ブームやトランプ関税を反映した活発な動きがみられた。

1. 台湾 TSMC が量産する AI 用 GPU、それと合わせて使われる HBM(広帯域幅メモリ)の需要急増を反映、台湾-韓国間の貿易は 7 割近く増加した。
2. トランプ関税の影響を避ける中国からベトナムへの生産移管を反映、ベトナム始めマレーシア、シンガポールなど東南アジアの貿易が活発だった。
3. 半導体の最大の貿易国である中国は 3 年ぶりに輸出が最高更新、メモリ輸出が中心になるなど、今後世界市場でより影響力を高めそうだ。

## 速すぎ、遅すぎ？(SRL だより)

AIの進歩は急。似たようにお隣中国の変化も速い。EVでは世界一になり、ロボットも同様だ。中国からの観光客が、日本の落ち着き、古い文化を求める例も多いという。彼の地の変化は速く、変化の少ないわが国の名所旧跡を求めるのはわかる感じがする。

話を戻せば、AIの進歩、半導体でみればトップランナーのエヌビディアの業績拡大はいつまで続くのか、大きな注目点だ。最近の情報では受注は旺盛で、26年は今の勢いが続きそう。驚異的な躍進だが、いずれは、転換点が到来する。大ヒットの行方は、当事者はもとより誰もわからない。それが歴史の示すところだ。

米国や中国などに比べわが国はブームにもう一歩といわれており、先行組に対して遅れあるいは遅すぎとの見方もある。そうだとすると、相手が速すぎる面があり、それに対して遅いかもしれないが、中間が肝要という場合もある。それは、EVやロボットでも共通した面があると感じている。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2026 年 著作権所有 株式会社 SRL

### SRL Monthly Report

2026年3月(毎月1回発行)第37巻3号(通巻441号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2026

### SRL Monthly Report

March 2026, No.441

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)